

ニューヨーク座談会での説法

李洪志

一九九七年三月二十二日

明日の交流会の前に、今日皆さんは何か聞きたいことがあれば、どうぞ聞いてください。

弟子：主人のお金を使うのは徳を失うことになりますか？

師：夫婦はこのような関係だから、このような問題はありません。なぜあなたはこの質問を出したのでしょうか。現在このような人間の倫理が人為的に乱されたからです。一部の人は女性の解放を唱えています。これは非常に微妙な問題です。女性があまりにも苦しんでおり、女性が解放され、男女平等になり、女性が少し強くなるべきだと言う人はいます。なぜこうなったのでしょうか。女性をひどく苛める男性がおり、女性が苦しんでいるからです。皆さんに教えますが、社会に腐敗墮落が起こる時、人々は腐敗墮落になった要素と腐敗の状態がどのように引き起こされたのかをなかなか見抜くことが出来ません。皆さんはとかく物事の中で物事を議論しがちです。

実は皆さんに教えますが、女性解放という宣伝も人類が墮落してから現れたのです。女性が男性にいじめられると言っているのではなく、男性も男性をいじめ、女性も女性をいじめ、男性も女性をいじめています。しかし男性が女性をいじめているときは顕れが顕著なのです。実は社会的な力を得た女性は男性を苛めることもあります。社会全体の道徳がすべて墮落したから引き起こされた現象です。実は男女の間は剛と柔の関係なので、女性が男性にいじめられると目立つのです。しかし皆さんに教えますが、なぜ私はこの現象が誤っていると言うのでしょうか。女性の自立と自彊を宣伝するのが間違っているというのでしょうか。今の人々はいつも現代人の墮落した観念で古代の人を量っており、女性が昔いじめられていたと思っていますが、実はまったく現代人が思っているようなことではありません。中国古代には、全世界を含めて西洋社会もそうですが、男性は如何に自分の妻に対処し、自分の妻を思いやっていたかわかを知っていました。妻も夫に思いやっているので、陰陽はこのように共存していました。二つの陽がぶつかると喧嘩になりますが、二つの陰が一緒になってもいけません。陰陽はこのように相補い、相互依存しています。

ところが、現在では、皆さん考えてみてください。女性解放を唱えると、女性はいじめられていると感じ、立ち上がるべきだと思うようになりました。しかしこれに伴って来た問題は何でしょうか。離婚、争い、子供が捨てられる等々の社会問題がすべて現れました。根本的な原因は女性が解放されるかどうかの問題ではなく、人類社会の道徳が腐敗墮落したからです。この原因ではないのでしょうか。これは根本的な原因です。問題を解決するのに、根本を解決せず、現象の中で現象を解決しようとすれ

ば、古い問題を解決しても新しい問題がまたやってくるわけです。社会がますます畸形に発展してしまうことにほかなりません。現在の社会では、多くの人がこの具体的な問題の中に立って問題を考え、闘争という方法で危機を解決しようとするれば、永遠に解決できません。人類は近代がなぜこうなったのか不可解に思っています。皆物事の中で物事を議論している時、各種の法律を作って制約を加えますが、人の心が良くなければ、また新たな変異、もっと良くない問題が現れ、それでまた何かの法律を作り、人類はこのように自分を封じこめており、最後に活路がまったくなくなるまで自らを封じ込めるのです。しかもこのようなやり方に伴って多くの社会問題が引き起こされます。

陰陽の学説によれば、女性は柔であるべきで、剛になってはいけません。男性は陽に属し剛であり、女は陰に属し柔であり、剛と柔をあわせると、きっと調和が取れるはずですが。現在男性が女性をいじめたいのではなく、社会が腐敗堕落したからです。男性であろうと、女性であろうと、皆他人をいじめています。同時に近代に陰陽反転が現れてきました。中国で最も目立っています。スポーツ選手ですが、受賞者は女性のほうが多く、男性はめったに賞を取りません。ただこの意味を言っているだけです。なぜこうなったのでしょうか。すべて陰が盛んで陽が衰え、この要素は陰陽反転が引き起こしたものです。その、女性解放などを宣伝した副作用もあり、社会の道德の腐敗堕落は世の中の人心の変化に拍車をかけました。実は女性は心から自分の主人が羊のようで、女性のようになってほしいのではありません。そうではありませんか。自分の主人が男らしくなく、強くないと悔やんでいます、いざ彼が本当に強くなったら、女性はまた耐えられなくなります。こういうことではありませんか？

人類は人類のあらゆる堕落現象、一切の一切に対しその根本的な原因を探そうとしません。具体的な問題の中で具体的な問題を解決しています。あるところに問題が起きたら、法律を作ります。別のところに問題が起きたら、法律を作ります。最後にあなたを牢屋の中にいるように動けないほど閉じ込めるのです。法律も最後に行き詰まり、法律を作った人は皆他人を治めたいと思っていますが、逆に法律も彼を治めているとは思いませんでした。人間が自分で自分に仕出かした全てが降りかかってきています。この道理ではありませんか。ですから、皆さんは社会観念が変異した流れに従ってそれを助長することをしないでください。常人がこれをやりたいので、私達もそれに従ってやってはいけません。私はなぜ私達が常人と同じになってはいけないと言ったのでしょうか。常人がこれらのことに気づかないからです。

人類の根本的な打開策は、何かの法律で誰かを管理することではなく、天下に徳を治めることです。人間の道德が皆向上したら、人をいじめることがなくなり、お互い敬いあい、そうなればそれほど多くの悪人があるのでしょうか？ 警察も要らなくなります。警察に管理されているより行いが良いので、警察も必要なくなるでしょう。如何なる人も徳を重んじるなら、法律がなくてもいいのではありませんか。皆さんがご存知のように、古代の中国に、世界の他の地区も同じですが、人々の道德水準がとても高かった時、法律はありませんでした。法律などは全てありませんでした。

とても簡単な国法しかなかったのです。人々は良し悪しを量るのにすべて道徳に依拠していたのです。やったことが良いか悪いかは、その人の道徳観念がどうであるかを見るだけでした。この人には徳が無い、この一言だけで彼を量ったのです。判決を下す時もこのようにするのです。道徳のない者なら、板でたたきます。さらに良くなければ殺してしまいます。この人はもう人間ではない、殺してしまう、人間の倫理を破壊するものはもう要らない、という具合でした。人間はこの世に生きている以上、人間としての道徳規範、行動の準則があります。これらのものを失ったら、動物と同じようになり、それではこのような人を残しても意味がないから、淘汰してしまいます。現在の人類の考えを改めるのはなかなか難しいことです。皆さんは今日現れて来た女性の現象に気付きましたが、他の面でも同じではありませんか。人類の社会問題があまりにも多いので、唯一の打開策は人心を正すほかにありません。

弟子：若者が結婚したいと思うのは執着心ですか？

師：私がもし出家して、寺でこの法を伝えるとすれば、白人、他の民族の人とはともかく、中国大陸にはお寺に行く人はあまりいませんので、もっと多くの人々、真に法を得られる人に法を得させることが出来ないのです。私は社会で法を伝え、このような形を取って皆さんに法を得させている以上、この社会のやり方、普通の人々の生活様式に合致すると同時に、人に修煉させることが出来るようにしなければなりません。ですからこのような法を伝える形式といろいろ細かいところまで全て念入りに按配したのです。

私がもしお寺に入っていたら、結婚しなくてもいいのです。私も将来この法を学ぶ人が非常に多くなると知っていますが、将来の人間なら誰でもこの法を知っており、白人であれ、黄色人種であれ、何人であっても、きっと皆知っているのです。そこで、一つとても重大な問題が現れて来ます。つまり、人々が皆結婚しなければどうなるのでしょうか？ 皆は私のまねをするのです。私は法を説いている時も自分の行いで皆さんに教えているからです。私がちょっとした動きがあったら、ひいては私の身なりでも、一部の人はまねしたいから、私は非常にこれらの細かい事を重く見えています。正法を伝えるだけでなく私の行いも正しくなければなりません。皆さんが見た袈裟を着ている写真がありますが、それは将来に専修弟子の為に残したのです。私のように背広を着て常人社会で佛法を伝えることは天地開闢以来はじめてのことで、従来はなかったのです。法がこのように伝えられている以上、私たちの修煉は社会の形式にあわせなければなりません。

もし私のやった事に間違いがあったら、将来の人類はとても大きく変わってしまうのです。皆ご存知のように、佛は肉を食べないのです。「修煉の法門はとても多いのですが、皆佛教のように肉のことを絶対的に言っていないませんが、修煉は皆肉に執着しないのです。私は常人の中でこの法を伝え、修煉の人に常人の中で修煉させ、また学ぶ人はこれほど多いから、もし私が肉を食べないなら、将来の人は食べなくなり、人類の生活習慣、食べ物に変化が起こってしまうのです。ところが、肉食が確かに体を

丈夫にする作用があると神は皆知っており、これは菜食では出来ないことです。これは確かにそうです。もちろん、私たち修煉者は違います。修煉者が肉を食べなくても体はかえってとてもいいのです。それは修煉しているからです。もし一人の常人であれば、修煉もせず、肉も食べなければ、きっと栄養失調になるに違いありません。これも確かです。

結婚しないということについてですが、人類には後継ぎがなければいけないのではありませんか？ 私たちは全て考えたのです。一人の佛家の出家修煉者だったら、このように結婚してはいけないという決まりがありますが、しかし異なる修煉方法になるとそれは絶対的なことではなくなります。昔異なる歴史時期に、人類の異なる歴史時期に、異なる文明時期において、修煉の人に対する要求も違っていました。

結婚してはいけないということの目的は人の欲と色の心この二種類のものを除去するためです。しかし、常人の中で修煉するのであれば、初めからこのように要求してはいけません。人類はやはり代々を継いでいかなければいけません。常人社会で修煉する人も多いから、もし常人社会で修煉しながら皆常人社会の生活から離脱してしまうのでしたら、人類社会が無くなってしまうので、絶対いけません。人類は良くないものですが、人類もこの宇宙の上から下まで貫いて来た一部分であり、法の最も低い次元での現れの一部でもあります。人類が無くなってはいけません。しかし個別の人として、もし結婚したくなければ、構いませんが、それは個人のことで、誤りにはなりません。しかしこのような人は結婚しませんが、執着ではありません。皆さんは出家しなければ円満成就できないという別の障害に誤って入ってはいけません。

例えば、何千年以来残された修煉は、佛家、道家、初期のカトリック教、キリスト教と山の中で修煉にしても、皆結婚しないのです。修煉するなら結婚してはいけないという観念を人々にもたらしました。これは今日私たちの大法が世間で伝わっていくことに大きな妨害をもたらしました。この障害のせいで常人社会で修煉する弟子が結婚しなくなるということにくれぐれも気をつけてください。今日の私たちの修煉形式は最も複雑な人の群れの中で自分を高めることであり、副元神を高め或いは他の何かを修めるだけではありません。それで一番複雑な常人の中で皆さんの心を練磨しなければなりません。

常人社会で修煉する弟子は常人の社会状態に合わせなければなりません。これがこの法にあって厳しく守らなければいけないことです。私が言ったこのことの意味が分ったのでしょうか。しかし欲と色は必ず捨てなければならぬ執着です。昔の古い修煉方法或いは古い宗教の修煉方法によって一種の錯覚を持ち、私たちが修煉しようとするならばこのようにしなければならぬと思わないでください。そうではありません。私たちの今日の修煉形式は私が皆さんに残す修煉方法であり、今日この法を社会で伝えることに対しての各種の要求と方式も含めて、全て後の人の為に残したものです。

私たち書面をもって規定したものは皆さんも知っていますが、例えば、私たちは政治に参加しない、有形の組織という管理方法を取らない、階級分けもしない、金銭に

触れてはいけない、またこの法は人に官職を与えることなどが絶対ありえない、等等あります。社会の中でどんなことをしてもどんな高官になっても問題は無く、あなたの修練に影響もしません。それは常人社会のことで、修練は修練で、常人の中での事と修練を分けるべきであり、それは別々の事です。例えばあなたは常人の仕事をして常人社会に対し、人類に対して有益であっても、それは徳を積むことで修練では無く、別々のことです。くれぐれも一緒にしないでください。私の仕事は徳を積み善を施すことで、将来円満成就できると言った人がいました。人間は実際に修練しなければ、宗教の会長、指導者になって、お寺や佛像を造っても円満成就できるはずはありません。それは自分の言う事をうまくこじつけているだけです。仕事は仕事で、永遠に修練に変わることは出来ません。修練は修練で、常人の中の事は常人の中の事です。宗教の為に何かをすることも常人の為に何かをすることです。出家した人は佛ではありません。佛は人心を認めますが、宗教を認めません。これは別々のことで、一緒に混ぜてはいけません。

弟子：先生、私は深圳と広州の学習者を代表して先生にご挨拶を申し上げます。私が出る時にぜひ伝えてくださいと言われました。

師：先生はいつも全ての弟子のことを気にかけっていると皆さんに伝えてください。

弟子：高校生ですが、大学受験を前にして、勉強がとてもきついで、煉功は少なくなりましたが、どうしたらいいのでしょうか。

師：それは問題がありません。私たちが修練する動作は円満成就になるための補助的な手段であり、とても大事ですが、もっと大事なのは人の心を修めることです。心の中でずっと自分を修練者と見なしていれば、暫くの間、或いはかなり長い間に大変忙しくてどうしても煉功出来なくても、ずっと心の中で自分を修練者として要求していれば、功も伸びるのです。ただし、気をつけてほしいのは先生がこうおっしゃったからといって、煉功をやめようと思ってしまえば、それではいけません。これはもう一つの極端に走ってしまいました。特別な事情があれば、特別に配慮します。佛法には果てがないからです。佛法には果てがないというのはどういう意味でしょうか。方法がいくらでもあり、個々の事情を配慮しながら人を済度することができるということです。

弟子：先生、明日は録画してもよろしいでしょうか。

師：皆さんは既に聞いたかも知れませんが、中国大陸では私たちが伝えたこの法を学んだ人がとても多いですが、私は今講習会をまったく開いていません。大陸で学習者と会うこともしません。実は私は三年も中国大陸の学習者と会っていません。しかし学ぶ人はますます多くなり、社会から重視されるようになりました。それほど多くの人々が学んでいるのを見て、しかも人々が学んだら皆良いと言っています。皆さんの言葉を借りて言えば、皆さんは学んでから、非常に固い決意を持って修練しています。

人数が多くなると、中国という社会で一部の人は何かを考え始めるかもしれません。多くの人は常人の考えを持って、私と法を量り、人の為に良い事をするのもとても難しいことですが、それは人の心が歪んでしまったからです。これらの余計な厄介な事を避ける為、私はこのごろ外国で学習者と会うときに録音も録画もしないように言いました。どういう意味でしょうか？ これらのものは国内に伝わらないようにしたいからです。私たちは政治に関与しないから、もちろん政治的な問題もありますが、悪人が私の話の一部から意味を取って破壊活動をし、天下が乱れることを望んでいます。面倒を引き起こさず、この法を正確に、正しく如何なるずれもなく人類と未来に残したいからです。もし私たちが何か不必要な損失を受けたら、将来とても残念なことになるので、私たちは一時的なことだけ考えてはいけません。

録音テープであれ、録画テープであれ、将来きっと残らないのです。これは間違いないことです。ご存知のように、一部のものは現在既に消され始めました。つまり以前の録画テープは既に画像がなくなり、録音テープも音声がなくなり、徐々に消されています。一部のものはこのように残されてはいけません。私が皆さんの状況に対して言ったことを他人が聞いたらまた違う状態が現れ、それに対する理解も違います。『転法輪』は皆さんが読むのにふさわしいものです。こういうことです。皆さんは自分で判断してください。このことについて私は絶対だとは言っていない。

弟子：師父、私は上海から来たのです。上海の弟子は本当に非常に先生に会いたいです。前回の国際交流会から帰ってから、先生に会ったと言ったら皆涙を流しました。彼らは先生によろしくお伝えくださいと言っていました。

師：皆さんに教えてください、私はとても残念に思っています。当初功を伝えた時上海にいけなかったのです。私は当時この法に正しい道を残す為、他の気功師のように、露店を出して大道のたたき売りをするもののように或いは行商人のようにしなかったのです。皆現地の気功団体、気功科学研究会或いは政府部門からの要請を得てから、始めて行くのです。上海がずっと要請を出さなかったので、このことは後回しにされました。後に要請があった時、功を伝えることは既にやめました。ところが中国のこの大都市へ法を伝えに行けなかったことはずっと残念に思っています。北京に次ぐ中国の一番大きな都市は上海です。勿論私は今上海で法を学ぶ人がとても多くいるのを知っています。とても嬉しいことに、私は行きませんでした。上海での大法の広がり発展の過程はやはり非常に健全で、皆さんも着実に学んでいるから、これはすばらしいことです。

弟子：李先生、私は北京からの弟子です。北京の全ての弟子は先生にご挨拶申し上げます。

師：北京、実は北京だけでなく、多くのところの学習者も同じですが、私も皆さんに会いたいのですが、私は皆さんに会いにいけないのです。私が一旦皆さんに会ったら、一人が私に会うと、数時間のうちにすぐ数十人が来て、一日に数千人が来て、翌日一

万人以上になるかもしれません。地方の人も来ます。今日のように多くの人は地方から来れば、社会から苦情が出るかもしれません。ですから皆さんに会うことが出来ません。しかし私も考えていますが、厳しい社会制度の下で社会にこの法を何のずれもなく伝えていくことが出来れば、歴史上とても厳しい時期の試練を通過したということです。ですから将来如何なる歴史時期にも私たちは破壊されない地に立つことが出来ます、そうではないでしょうか？

弟子：香港と中国から『転法輪』を持ってきた学習者がいますが、会場で販売してもよろしいですか？

師：もし『転法輪』を持っており、会場で皆さんの為に良い事をして、本を持っていない学習者に便宜を図りたいのなら、間違っただけではありません。しても良いと思います。皆さんも名や利を求めているわけではないので、問題はありません。ところが私たちはこれらのことをする前に、他の厄介なことを起こさないようにアメリカの責任者に声をかければ、問題ないと思います。

在席の皆さんは前回私に会ってから、既にしばらく修煉して、法に対してある程度の理解があるので、みだりに行動することはないと思います。私はなぜこんなに安心していただけるのでしょうか？ 皆さんは私が何を伝えたかを知っているからです。私たちは何も求めませんが、ただ人の心だけを求めています。もし人の心も変えられないなら、この法は何の役割もありません。如何なる厳しい形式も人の心を変えることが出来ません。ですから私たちはあれこれの規定でいかに行動すべきかを要求してはいけません。このようにしてはいけません。この法が健全に発展することが出来、学ぶ人が益々多くなり、社会でこれほど良い役割を果たすことが出来たのは、皆さんの心の中に既に法があって、どのようにするかが分っており、誰かから教えてもらう必要もなく、私もどのようにするかを皆さんに教える必要がないからです。私も割合安心してしています。もしここにいる誰かが良くないことをしたら、他の人はすぐ気付くのです。法があるから、法によって量られ、きっとそうなるのです。

弟子：先生は法を私たち中国人に伝えるほか、他の人種にも伝えるとおっしゃいましたが、どのようにこの法を広くほかの人に伝えるかについてご指導をお願いしたいのです。

師：これについて私たちも特別な規定はありません。法は伝えだされたからには、それを人に与えるものです。今既に翻訳されたのはドイツ語、日本語、韓国語、フランス語、英語、それにロシア語等があります。かなり多いのです。またイタリア語も訳しているようです。ほかの翻訳も頑張っていてやっているところです。

このような仕事は翻訳班がしました。資料があれば、人は読むことが出来ます。どのように伝えるかについて私たちはそのやり方に関して何の規定もありません。この法を伝えた時この法は良いと思い、皆さんははじめて大切にしています。良いからこそ法を他の人に教えたいのです。ですからこの法の伝播は皆心から心へ、人から人へ

と伝わっています。大体このようなやり方を取って伝えていきます。中国で着実に修煉している人は既に二千万人もいますが、一応修煉していますがそれほどしっかりやっていない人も含めれば、現在一億人もいます。しかし、社会においては表面的に静かで、知っている人がいないようですが、皆口コミで心から心へと伝えていきます。既に相当大的な勢いが形成されました。何か特別な規定もなく、皆自ら伝えていきます。私が言ったこのことの意味は分りましたか？ 私たちは如何なる形式上の規定もありますが、佛家が衆生をあまねく済度する事を重んじているからです。人を済度するということはあなたが人を済度するというのではなく、あなたはまだ修煉しているから、絶対人を済度する事が出来ませんが、あなたが法を他人に紹介することは他人が法を得ることへの最も良い助けとなりました。将来の人はどれほど貴重かがわかりますが、人にいくらお金をあげても、いくら良いものをあげても、法を紹介することには及びません。法はある地区、民族、国ひいては人類の道徳を回復させ、幸せにすることができます。これらがあつてから初めて人類は健康的に発展することができます。

弟子：私は法輪佛法を学んでから、まず真面目に働いて、仕事をきちんとして、どうしても暇でやることがない時、本を読もうと思います。

師：それは最も良い事ではありませんか。あなたが日常生活にぶつかったこと、職場或いは社会でぶつかった何らかのことはあなたのある心を向上させることが出来るかも知れません。ぶつかったそのことはあなたの執着心を取り除くためであるかも知れず、或いはあなたの何かを助けているためであるかも知れません。人間は一旦修煉の道に入ってから、その後の一生に偶然な事は存在しなくなります。修煉は順序良く按配されたので、それほど時間的な余裕があるというわけではないから、偶然なことはあり得ません。全てとても順序良く按配されています。皆さんが普段ぶつかった偶然に出現したような些細なことを偶然なこととして考えてはいけません。なぜならば、多くの不思議な事が起こったりして、或いは他の空間に行って修煉する事はあり得ないからです。それならあなたの心を高めることができません。やはりこのような日常の状態、常人の中のトラブルで、常人の生活スタイルで、ぶつかったことは以前とさほどの違いありません。しかし、良く考えてみてください。やはり違います。全てはあなたの修煉が向上できるようにするために現れてきたのです。

弟子：先生は真・善・忍を説いていらっしゃいますが、他人を裏切ったり、承諾したりした事があるかも知れませんが、こういう場合、私たち人を助けてその悪者をやっつけます。

師：私たちはこのように考えています。本にも全部書いてあります。つまり日常の事、腹が立って仕方がない事にぶつかって、それに構ってはいけないといっているのではありません。このようなことに出くわしたら二言三言を言っても良いですが、何の働きもないかも知れません。あなたの言ったことは的が外れているかも知れません。な

ぜなら、そのトラブルの背後に何があるか、つまりどういう因縁関係なのか、あなたには分からないからです。例えば一人がもう一人を殴ったとします。常人の立場から見れば、人を殴った人は正しくないと思われます。なぜ人を殴るのですか。しかし時間を遡れば、殴られた人の前半生或いは前の一世に彼がかつて相手を一発殴った事があることが分ります。私たち修煉者は人を見るとき、その人の一生だけを見てはならず、その生命の全過程を見なければなりません。それで彼は相手に借りがあったのです。

これらの事について警察が入ったら大丈夫ですが、常人が常人を管理するのは世間の理に適っています。これは何も批判されることがありません。しかし一人の修煉者として、このような事に遭ったらあまり構わず、出来るだけ構わないほうがいいと思います。なぜでしょうか？ 構うと間違って構ってしまう恐れがあります。思っているような事ではないからです。あなたは修煉者で、どうしてもそうしてしまえば、業を造ることになるかも知れません。このことに支障を来たし、邪魔してしまいました。本来その神は彼が今生に業を返すと按配しましたが、返す事が出来なかったのも、いつか二人はまた殴りあうような事をしなければなりません。私が言った話はこの意味です。しかしもし本当に殺人や放火などのことに遭って何も助けなかったら、それは心性の問題です。修煉者、一人の神としても助けてあげるべきです。そうではないでしょうか？ しかし、このようなことには普通なかなか遭遇せず、ひいてはまったく遭遇しないのです。つまりあなたの生活にこのような事を按配しません。皆さんの心性の向上に役立たなければいけません。何の役も立たなければ意味がありません。そのような出来事は往々に私たち学習者はめったに遭遇せず、ほとんどありません。

誰かを裏切ったとか、常人に何かの承諾をしたとかについて、それは全て常人の事です。修煉した以上法で量り、修煉者の基準を自分に要求しなければなりません。裏切りだとか、常人に対する承諾だとか、何に対しても常人の基準によって量るようでは、常人ではありませんか？

弟子：アメリカにいる留学生は、皆一種の執着心を抱いて無味乾燥な自然科学を勉強しています。

師：私は明日この問題について触れるかもしれませんが。私はこのような道理を言っていますが、人類の歴史と人類の科学は実は一つの間違いです。その発展の立脚点、人類、大自然、物質に対しての認識の立脚点は間違っているのも、今日人類社会の道徳の腐敗墮落をもたらしたのも、これはとても深刻な問題ですので、明日これについてお話しします。ただもし人類が知識を持っていなければ今日『転法輪』を読むことができず、少なくとも中にあるもっと奥深い内涵を読み取ることが出来ません。ですから皆さんが習った知識も偶然なことではないかも知れず、未来の人類は新しい科学の出発点から科学を発展させるためにも知識が必要です。

一人の大法弟子として、そのときどうするかは自ずと分ってくると思います。全てが偶然なことではないかも知れませんが、今学ぶべきものを学び、それに執着しないでください。聞くところによると、ある学習者は当初アメリカに来た時、間違っ

ことをしたため、自ら退学したそうです。私に言わせれば、初めは間違っただけかもしれませんが、今誤りに誤りを重ねたのです。こうなった以上自分の今後の生活に人為的に困難をもたらさないでください。間違ってしまったことに対して全て同じやり方で改める事が出来ませんので、心の中で間違っただと認識し、もう二度とこのような事をしないと分かり、今後さらに良く行うという事で過失の償いをすれば良いのです。これだったら問題が無いと思います。間違っただからといってどうしてもあなたにこのことを引き受けて償わせるはずはありません。このように過失に対処しません。つまり修煉と生活に困難をもたらさないでください。学生として、今良く勉強しなさいと教える事しか出来ません。学生だから良く勉強すべきです。

たとえあなたが他の何かの仕事をして、それは常人社会の仕事なので、常人社会の理から見ればこの空間の人類社会に奉仕している為、それをしっかりやるべきです。人類も宇宙大法の最低の次元における生命の現れです。

弟子：私はドイツの弟子を代表いたしまして先生にご挨拶申し上げます。

師：ドイツからの招聘状を私は既に見ました。去年 11 月寒かったときロシアからも招聘状がありました。暖かくなったら時期を見て行きます。

弟子：先生、私は元々日本に移住した者ですが、もし将来機会がございましたら、私たちは先生に日本にいらしていただきたいと思っております。

師：私が広州で講習班を開いた時、ある日本からの人が受講に来ました。その後、彼は日本に帰って何人かを集めて、皆日本人の年配の方が学んでいたようです。しかししばらく学んでも、彼がやはり彼のもとの気功を捨てる事が出来なかったため、私たちはずっと彼と連絡をしていません。彼が教えたそれらの人も純粋なものではないので、ずっと彼と連絡を取らなかったのです。

弟子：主人は日本人ですが、彼は大法がとても好きで、非常に良いと思っております。

師：文化の違いではないかと思えます。しかし日本人は本当に学べば、白人より学びやすいと思えます。東方の人は皆考え方が同じだからです。西洋の人は考え方が違います。西洋の人が学んでも、効果は良かったのです。日本に私は一回行ったことがあります。ただ日本人がどうなったかを見ただけです。

弟子：もしこの大法が将来人々の心の法となりましたら、社会科学の領域ではつまり哲学や文学はどうなっていくのでしょうか。

師：全て変化が生じます。しかも斬新なものになります。人間のこの社会、人類、全てに対する認識は全部方向が転換します。現在北京の多くの学習者は自分が他の人と違うと知っているから、私たちが新人類だという言い方を広げています。勿論私はこの言い方を認めているというわけではありませんが、ただこの意味を言っているだけです。きっと現在の人の考え方、物事に対する認識の仕方とはまったく違います。必

ずそうなるのです。絶えずこの法を深く勉強していくにつれて、如何なることに対しても見直すはずです。在席の皆さんの多くは学歴が高い人で、多くの人が留学生ですが、良く味わえば、人類の全ての事とあなたの認識は皆、変化していると気付くのです。先程言ったように、人類の発展、人類が人類の起源に対しての認識、進化論などは全て存在しないものです。物質、宇宙、生命及びこの現実世界、この宇宙空間に対する認識は全て誤った基点に立って発展して来たのです。

弟子：主元神は何時入るのですか・・・。

師：主元神は普通生まれる直前に入ります。具体的な時間は決まっています。生まれる直前、或いは生まれる随分前、生まれる半月前、一ヵ月前、または更に前の時もあり得ます。

弟子：先生は人類がクローン人間を作ることに對してどう思っているのでしょうか？

師：人類は道德規範が無くなったら、何でもやってしまいます。このような人は生まれたら父母という觀念が無く、倫理道德の觀念も無く、非常に恐ろしいのです。ひいてはある人の替わりとして人を複製してから、その人を殺すまでやりかねません。人類の道德が腐敗墮落したから、このようなことが現れたのです。しかし皆さんのクローン人間は現れてこないと思います。なぜなら、神はそれを許さないからです。本当に複製できても、その人ではなく、魔だけが憑くことが出来ます。神はその人に元神を与えるはずがありません。

弟子：混血の人が修煉すれば、どの世界に入るのでしょうか。

師：混血の人は一人の人間として言えば、既に天上にそれに対応する人種がなくなりました。一人の修煉者として言えば、その表面的なものを重視せず、彼の元神を見るのです。彼の元神が白人であれば、白人、黄色人種であれば、黄色人種、黒人であれば、黒人になるのです。修煉すれば話は別です。

弟子：混血の人は円満成就することが出来るのでしょうか。

師：修めることが出来るか否か、円満成就できるか否かは、何れもその人自身にかかっています。混血の人が最後まで修煉すれば同様に円満成就できます。円満成就できたら、その元神のあるところに帰ります。

弟子：先生は前回に混血の人は既に何を失ったとおっしゃいましたか。

師：混血の人は上から貫いてきた身体を失いました。こういうふうに説明しましょう。黄色人種は天上においての黄色人種がいます。白人は天上においての白人がいます。彼はつながりの糸を失いました。

弟子：先生は赤ちゃんが生まれてから初めて元神があるとおっしゃいましたが、それでは妊娠の時に生命が無いのでしょうか。ご説明をお願いいたします。

師：違います。如何なる物体ですが、私がこの話をしたことがあります……。如何なる物体でも生じたときに既に一つの生命が注ぎ込まれたのです。工場で作られた製品、如何なる物も、見かけはそうですが、皆生命があるのです。胎児が母体の中でまだ小さい時、少しばかりの芽生えができたなら、既に命があるのです。しかしまだ元神が無いのですが、どのように生きていくのでしょうか。元神が無くても、それ自身も生命力があります。その人は自分のほか、昔の修煉で言う霊や魂があるのではありませんか。勿論それほど具体的ではありませんが、ただこの意味を言っているだけです。つまり主元神以外に、あなたの体の中に人の生命を構成するほかの要素があります。肉体自身にはまた親の形象を持つ生命があります。父親、母親の形象も生き物です。人体は元々非常に複雑なのです。

弟子：それなら中絶も殺生になるのでしょうか。

師：それはそうです。妊娠して中絶すれば殺生になります。人類の道德はどうなったのか、人類や法律が承認するかどうかに関わらず、法律は神を代表できないので、中絶をしたらそれは間違いなく殺生になります。法律で量れば殺生ではないと言っても、それは人間が言った事です。産婦人科の病院に多くの赤ちゃんがいますが、その周りの空間に多くの手足がそろっていないものがいて、或いは手足がそろっていても、そこにあって行く処のない幼い子供の生命があると気付きました。本来この生命は転生したら、その将来があり、幾年か生きてからまた輪廻に入るかもしれません。しかしまだ生まれていないのに、彼を殺してしまったのです。それで彼はこの長い歳月に苦しんでもがいています。そんな幼い生命は独りぼっちになって、なんとかわいそうでしょう。彼は天に決められたこの世に生きる年が全部過ぎてから始めて、次の輪廻に入ることができます。ですから一遍にそれほど苦しい境地まで陥らせたら、それは殺生ではないのでしょうか。しかも業力はとても大きいのです。子供がほしくなければ避妊をすればいいのです。

弟子：こんな業力ではまだ修煉することができるのでしょうか。

師：できます。勿論できます。しかし私が話したことがあります、宇宙大法が円融なので、ある固定した次元から見れば、法は絶対的なものになります。異なる次元に異なる法があり、次元が高ければ高いほど、理に対する認識がはっきりしたものになってきます。本当に円満成就できれば、彼らはきっとあなたの宇宙の衆生になります。そうしたら、殺生しようと思う人は出てくるかもしれません。このように考える人は必ず円満成就できません。もし円満成就できなければ、あなたが殺したそれらの生命に対し、いくら償っても償い切れません。私が話したこの意味は分ったでしょうか？ 修煉はこれらのことを補う事ができますが、真に修煉しなければなりません。円満成就してから因果関係を見るのです。

弟子：例えば二十年前に中絶したとしますが、そのときまだ分っておらず、中絶は許される事でした。もし今から修煉すれば、業力はこんなにも大きいのですが、どうしたらいいのでしょうか？

師：ただひたすらに修煉してください。実は私たちの多くの方は生々世々にどの世で何をしたかも分かりませんし、何時か大きな業力を積んだかもしれません。今日の人は皆業に業を重ねて来たもので、業力が無い人はもういません。生命を殺害したことが無い人も無いようです。殺生は必ずしも人間の生命を殺すとは限りません。あなたを済度することができ、あなたが修煉することができ、法を得た以上、これらの問題をもう考えないでください。ただ修煉に専念してください。私は全てのことに對して按配があり、あなたが円満成就できたら、私はうまくこれらのことをやってあげます。

弟子：ドイツに獵師をしている法輪大法の学習者がいます。彼らは狐の憑き物が良くないとはいっていますが、私はまだその言い方を受け入れることができません。

師：狐そのものについて私たちは触れませんが、将来存在しないかも知れません。しかし、修煉者としてできるだけ殺生のことをしないほうがいいのです。慈悲を持たなければ行けないからです。狐の憑き物ですが、多くの狐は靈氣を得たものです。狐は靈氣を持っていないければ、人に憑くことができません。

弟子：将来の人類はまた上へ修煉するのでしょうか。

師：将来の人類がそのときになったら、皆さんの修煉が殆ど終わっているでしょう。しかしそれももうすぐです。将来録音テープ、録画テープは未来の人に残されず、未来の人は私の形象を知りません。私が多くの天機を漏らしたと言う人がいますが、実は未来の人は私の説法を聞くことはありません。今町にいる人は何も知らず、法を聞いたこともありません。勿論皆さんはもし本当に円満成就できたら、皆ここから離れてしまうので、私は神に法を説いています。ですから天機はまだ人間に漏らしていません。未来の人は非常に素晴らしい時代に入り、未来の人は皆とても福のある人です。相対的に言えば、修煉は少し難しくなり、なぜなら、環境が良くなり、それほど多くの苦も無いから、修煉も難しくなります。しかし、逆から言えば、それはまた正常なことであり、この世もそれほど苦しくなくなり、悪くなくなり、正常な修煉時期に入るのです。

修煉はとても苦しいのです。あなたが嘗めた苦だけではなく、私は昔「高所は寒さを禁ぜず」と言ったことがあります。私が言ったこの話の意味は常人の言っているのとは違います。つまり、あなたの境地が向上し、功が伸びたら、あなたの全ても従って向上し、あなたの考え方も変わったから、あなたと理解し会える人はとても少なくなるのです。このことに関してあなたはとてもさびしく感じ、苦にあってのような感じがします。それでこれに伴って一つの状態が現れます。常人との話や接触が少なくなり、家族までもそうなります。きっとそうなるのです。しかしこれは皆正常なこ

とです。できるだけこの関係をうまく扱えばいいのです。皆さんが確かに一人の常人だとは言えないからです。神である以上、常人ではない以上、昔修煉の和尚は出家すると半分が神になったのです。現在の和尚は勿論そうではなく、彼にはその素質を備えていません。出家すると半分が神になったと言ったのはなぜでしょうか。昔の修煉は出家すると世間との縁を切るのです。彼はこれでまだ常人なのでしょう。勿論常人と同じになってはいけません。常人は常人の情から離れることができません。皆さんが修煉を通じて本当に向上してきたら、常人の執着するものに執着せず、常人が興味津々に話している事は無味乾燥だと感じるのです。

それで皆さんは必然的に常人と差があり、この溝が益々深くなります。しかしこれらのことをあまり考えすぎないようにしてください。一旦この状態に入ったら、次第に接触するべきものに接触し、徐々に功が開き、悟りが開くようになります。皆さんは皆さんの楽しみがあり、常人は常人の楽しみがあり、勿論神には神の楽しみがあります。

弟子：アメリカで育てられた子供は中国語があまり上手ではないので、将来は中国に帰国させる必要があるのでしょうか。

師：皆さんに教えますが、私は海外で多くの国を回りましたが、どこでもこの問題に気付いたので、私は弟子に会ったら、子供に中国語を習わせ、黄色人種としての特徴を失ってはいけないと私はよく言いました。白人世界の中にあなたが無く、最後にはやはり黄色人種の世界に帰らなければならないからです。もし法を勉強しにきて法の本当の意味を理解できなければ、それこそ深刻な事です。今日翻訳された本も過度期に人の認識の過程を与えるのであって、『中国法輪功』のように、ただ認識過程のものに過ぎず、本当の修煉は『転法輪』を読まなければなりません。外国語で翻訳した本も一つの認識過程を与えるもので、本当に修煉しようとするれば、原文を読まなければなりません。原文の中からやっとその意味を読み取る事ができるのです。いくら上手に翻訳できたとしても、とても浅はかで、内涵がありません。ですから多くの方は本を読むたびに違うと感じます。同じ話でも異なる境地から見ればまったく違っています。

弟子：一部の古い学習者は新しい学習者と一緒に交流したくないのですが、これは正しいのでしょうか？

師：私たち皆必ず煉功点に来て煉功しなければならないと規定していません。ただ煉功点で集団煉功し、切磋琢磨をすれば向上が速く、学習者の向上に役に立つと言っているだけです。家で煉功したいなら、家で煉功すればいいのです。これは構いません。一部の人は修煉が良くできていますが、確かに家で修煉する人にこのような人が多いのです。しかし精進ができず、家から出てこない人も少なくありません。ですから一概に論じてはいけませんし、無理に要求してもいけません。修煉は人の心にかかることであり、本人が修めたくなければ、無理に修煉させても何の意味もありません。そ

うではないでしょうか。本人が佛になりたくなければ、佛も為す術がありません。自分がほしい、自分がやりたいと思ってから始めてできるのです。しかし外に出てもらえば、法を弘めることに役立つから、とてもいいと思って、彼に外に出るようにと勧めてもいいのですが、必ずしもそうではないかもしれません。家で修煉しても外で修煉しても皆同じです。

更に、私はもう一つのことに気付きました。もちろん質問者が言っていることではありません。中国大陸で初期の古い学習者の多くは外に出てこなくなりました。今外で修煉しているのは殆ど私の説法を聞いたことのない人で、このような人は非常に多いのです。これはこの大法が伝わっていく為の形式なので、皆さんに残しました。後の人もこのようにします。非常にいいのです。それらの家に戻った人はだめになったと言っているのではなく、多くの方は既に修煉がかなり良くできています。入門してまだまもなく、法に対する認識が深くない学習者と共通の言葉を分かち合えない為、このような問題があります。学習者達が興味津々に口にすることが執着だと彼は思って、とてもつらいのです。これは彼らが来なくなる理由であるかもしれません。このような場合もあります。常人は何かをするとき、往々にしてある心、ある目的を持っています。もしその人の修煉が非常に良くできて、如何なる常人の執着心も無いとき、人と一緒にいられなくなります。人間の全ての話に耐えられないのです。常人の全ての話、全ての念、考えの中にあるすべての念に皆目的があります。考えが非常に清らかで静かで、何も無いとき、他人が何を考えているのかを全部知ることができます。それで他人の一念、一挙一動、一言でも耐えることができず、嫌がります。また相手にはっきりと説明できないので、出てこなくなりました。こういう人もいますが、全てこのような状況ではありません。ところが、新しい学習者は出てきて煉功したほうが良いと思います。なぜでしょうか。確かに皆さんの向上に良いからです。もし出てきて煉功せずに、家で煉功し、自分で悟れば、勿論悟る事ができますが、非常に遅いのです。精進したくない人はいるのでしょうか。誰もが速く向上したいと思っています。

弟子：私たちは何かをするとき、それがやるべき事なのかどうか判断できません。どのように真・善・忍を私たちの行動の指標にするのでしょうか？

師：実はそのことはやるべきかやるべきではないかという事ではありません。人は往々にして具体的な物事の中に陥って良し悪しを判断しているので、かえって判断する事ができなくなります。私はなぜ人類の今日の発展の全てが分るのでしょうか。どんな事であっても私は説明する事ができます。私はその中にいないからです。皆さんが物事を観る時、今までのようにその中に陥って判断し、その具体的な物事の中でその事に即して論じるようなことをしてはならず、そこから抜け出して観察して、それが真・善・忍に符合しているかどうかを判断すべきです。もし修煉の良くできた人、或いは神や菩薩がこの事を前にしたら、どう扱うのでしょうか。このように考えると、正念が出てくれば、すぐ分るはずです。

弟子：複雑な環境に高い次元の人が現れてくるといわれていますが、大陸の環境はきっとアメリカよりずっと複雑なので、大陸で修煉した人は早くできるはずですか？

師：どこでも複雑です。その複雑さの現れ方は違います。大陸の人はお互いの心の軋轢が非常にひどいのです。互いに腹を探り合って暗闘するなどの現象が激しいのです。しかしアメリカの表面的な文化はひどく破壊され、魔性がとても強いので、どこでも修煉できます。

弟子：空気がひどく汚染されていますが、修煉に悪影響があるのではありませんか？

師：ありません。私たち修煉者にとって問題はありません。皆さんの身体は次第に高エネルギー物質に取って代わられているので、これらのものは皆さんを汚染できません。

弟子：修煉は、自然環境、社会環境などを含む外部環境、或いは修煉者本人の人間関係と生活環境を良い方向、真善忍のほうへ発展させる事ができますか？

師：このような働きがありますが、ただ非常に微妙で、観察しにくいのです。あなたと関係ある全ても微妙に変化しています。二つの方面の変化です。一つはあなたからますます離れてしまいます。もう一つはあなたにますます近づいてきます。つまりますます良くなります。あなたから完全に背離するものもあります。だめなものはあなたから背離してしまいます。こうなるはずですか。変化はとても微妙なものです。

弟子：先生、煉功する時の単盤と双盤は、最終的にどんな影響があるのでしょうか。

師：中に修煉の基因、機制があるのです。私たちの功法の双盤という機制は一台の機械のようで、機械の歯車がこのように組み立てるべきですが、どうしても別の形で組み立てれば、物を作る事ができなくなります。しかしそれはそれほど絶対的なことではなく、一部の人は徐々に向上するという過程があるからです。組めなければゆっくり練習すればいいのです。ですから私たちはやはり方法があるから、できるだけ早く追いつくようにしなければなりません。

弟子：座禅して入静できなければ、「定」に達することも出来ません。これは自分の次元が低く、高次元へ行くことができないと言っているのでしょうか。

師：そこに座ってすぐ入定できれば、現在の次元は既に非常に高いのです。これは既に本に書かれています。どうしても入定できなければ、その抑えられない考えを他人だと思えばいいのです。実は皆さんに教えますが、本来もそれはあなたではなく、それは後天的に形成された観念と思想業力から構成されたのです。あなたは本来座禅して入静しようとしていますが、それはなぜ入静できないのでしょうか？ あなたの言う事を聞かないのならば、まだあなたであり得ますか？ それは業力が積み上がってきているので、それを他人と見なすべきです。執着が少なくなるにつれて、段々と静

かになる事ができ、次元も向上しているのです。

弟子：煉功の時いつも眠くなるのであれば、寝たほうがいいのでしょうか？ それとも魔なののでしょうか。それともそれと戦うのでしょうか。

師：睡眠自身は魔ではなく、それは人間が休まなければならない要素です。これも宇宙が構成したもので、一種の要素です。しかし修煉者として言えば、修煉の時に寝てしまえば、魔の作用が働き、あなたに修煉させないのです。それ自身は魔ではありませんが、このような作用が働きます。しかし逆に言えば、またあなたの意志を固めるために作用しているので、意志はあなた自身で修めるものではありませんか？ 自分の意志を固めるべきであり、それを抑制することは意志を固める事であり、これも修煉です。煉功の時に眠くなるということ自身も思想業力が働いた作用です。

弟子：気機は一体どういうことでしょうか？

師：気機とは功のとてもミクロ的な物質、人に見えない物質で構成された運動の機制です。この機制は有形な物ですが、人には見えません。将来ある程度まで修煉し、天目が良く開いたら見えるようになります。まさに一本の帯のようで、白い帯のようで、あなたの体外で廻っています。しかし丹田の中の法輪と繋がっており、煉功しているときに絶えず強化されています。機制は強ければ強いほど、あなたを自動的に煉功させることができ、あなたが煉功していないときにもそれが回っており、あなたを自動的に煉功させているようにしています。私たちが伝えだした五式の功法の中に機制が皆このように運動しています。ですからここに立って動いていないように見えますが、あなたの身体の機制は絶えず運動しており、あなたの身体を全面的に演化させています。

弟子：法輪世界の中に法輪の歌があるのでしょうか？

師：それは広告をしているのであって、人間の情が入っています。佛法はどうしてこれほど厳粛でない事があるのでしょうか？！ 現在人々は佛をも人格化しています。しかし、佛は比類が無いほど偉大な神です。昔佛のことに言及したら、誰でもこの上ない敬慕の心が生じてきました。現在では皆軽々しく口にしています。墓石に佛、菩薩、聖母マリアの肖像が刻まれています。全く佛、菩薩と聖母マリアを踏みにじるものです。周りは全て死んだ人の墓碑です。人間は、自分が何をしているか分っていません。人間はそれが良いと思っており、佛、菩薩と聖母マリアに死んだ人の面倒を見させようとしています。神に指図しているのです。こういうことではありませんか。これは実は全て人間の罪深い考えから思い出されたものです。多くの功法が何か踊ったり歌ったりしていると聞いていますが、これらのものは修煉と何の関係があるのでしょうか？ しかも人々の情に対する執着を助長しているのです。人間の考え、人間の考え方を持って、佛、道、神を扱っていますが、実は全然人間の考え方で考えてはいけません。修煉がとてもよくできた時、人間のこれらの考えが無いとき、やっ

と円満成就できるのです。

弟子：私たちはある種の有為な状態の中で生活していますが、正常な暮らしの中の欲望を捨てるべきですが、私は時に分らなくなりますので、非常に緊張してしまいます。

師：修煉の時、自分が法に対してある程度の認識ができたから、向上し、一部の考えを除去するべきだと思いますが、その考えがまだあるのに気付いて、非常に困っており、どうしてこのような考えがまだあるのかと悩んでいると言っているのでしょうか？ 皆さんに教えますが、前回私が説法した時、既にこの事について言及しました。常人の中での生活を維持するという常人の考えを全部除去してしまえば、あなたは一日も常人の中にいられなくなります。人間は何をしても皆執着心に指図されているのですから、常人の一つの考え、一つの念にも耐えられません。何の考えも無く常人と一緒にいる時にどんな気持ちなのか知らないのでしょうか。ですから、常人の中で修煉することができるように、円満成就の時に始めて人の最も表面まで転化させ、全ての執着を除去するのです。

弟子：白人が円満成就したらどの世界に行くのでしょうか？

師：この問題について既に話した事があります。『転法輪』を見ると中は全部佛の形象に見えた人がいるかもしれません。英語版の『転法輪』を見ると中は全部聖母マリアとイエスのような身なりをしている神、白人の姿かたちをしている神だと見えた人がいます。全ての文字が皆そうです。あなたはこの大法を修煉していますが、私たちは佛家だと話したことがあります。私が伝えたものは全宇宙の特性、宇宙の理、宇宙の法なので、勿論その神も中に含まれています。もしその人が白人であって、円満成就したら、修煉して身体から出た功も白人の形象で、円満成就してから白人の世界に行きます。彼らが修めた小さな嬰孩は全て羽を持っています。勿論道家も同じような状況です。

弟子：殺生によって生じた業力はどうやって償うのでしょうか。

師：非常に多くの弟子は修煉の過程でいくらかの危ない事、例えば自動車と衝突したとか、高い所から落ちた等、多くの事に遭いました。その後、その学習者は心の中ではとても喜んでいました。確かに喜ぶに値する事です。勿論私は法の中で話したことがあります。これで以前借りた非常に大きな業力を償い、ひいては命を償ったことに等しいのです。もし本当に命をもって償ったら、本当に地獄から除名された事になります。あなたは命で既に償ったからです。

本当のところ、一度衝突されましたがあなたに何の怪我も無いようですが、本当に一人のあなたが死んだのです。それは業力で構成されたあなたです。しかも身体にあなたに良くない業力で構成した考え、心、四肢があります。衝突で死にましたが、全部業力で構成したものです。私たちはあなたのためにこんな良い事をし、これほど大きな業力を取り除いて命の償いをしたのです。このようなことをする人はいません。

あなたが修煉できるからこそ、始めてこうしてあげることができたのです。あなたがそれを知った時、私に感謝する方法はありません。

弟子：私たちはどのように円満成就するのでしょうか。

師：私たちのこの法が伝えだされた目的は人の本体を佛体に転化させるところにあります。私たちはこの方法を取ったのです。涅槃や虹化、道家のように棺の中で竹の棒を人間に化けるような屍解の方法も取りません。正々堂々として人々に皆さんの円満成就を見せるのです。あなたの身体は既に変わったからです。

弟子：先生は常人の中で修煉していれば常人の仕事をかちんとしなければならない・・・とおっしゃいましたが、私は短時間ですぐできる仕事を探して、時間を修煉に使いたいと思っています。

師：私たちは皆このような考えを持っています。誰でも楽な仕事を探そうとしています。修煉の時間もたっぷりあるし、仕事もできます。良いかもしれません。考えはあくまでも考えであり、動機は全て修煉の為かもしれません。しかし往々にして私たちの思ったことは必ずしも実現できるとは限りません。皆の状況は違うからです。あなた自身が強く執着し、どうしてもそのようにしなければいけないと思わない限り、私の法身は全部ちゃんと按配してあげるので、普通に仕事しても同じように修煉できます。

弟子：繁体字と簡体字の『転法輪』を読んで感じ方が違うという人がいます。

師：そんなことはないでしょう。同じはずです。ただ中国大陸で「文化大革命」を経てから、人の考えが大きく変わったのです。台湾と東南アジアの他の地区の華僑と華人のこの点についての考えは少し違いがあります。繁体字の『転法輪』を読んだときにあなたは元の観念を持っているのではないのでしょうか？ 一旦簡体字を見ると、これが中国と合わないという観念と一緒にになってしまい、実際それがあなた自身の心の障害です。

弟子：『転法輪』を読んで、止めたくない時があります。時には煉功もしたくなくなりました。

師：『転法輪』を読んで止めたくなければ、多く読めばいいのです。それは構いません。時間をいくら長くしてもいいのです。本を多く読むことは良いことで、法を学ぶ事はとても重要なことです。